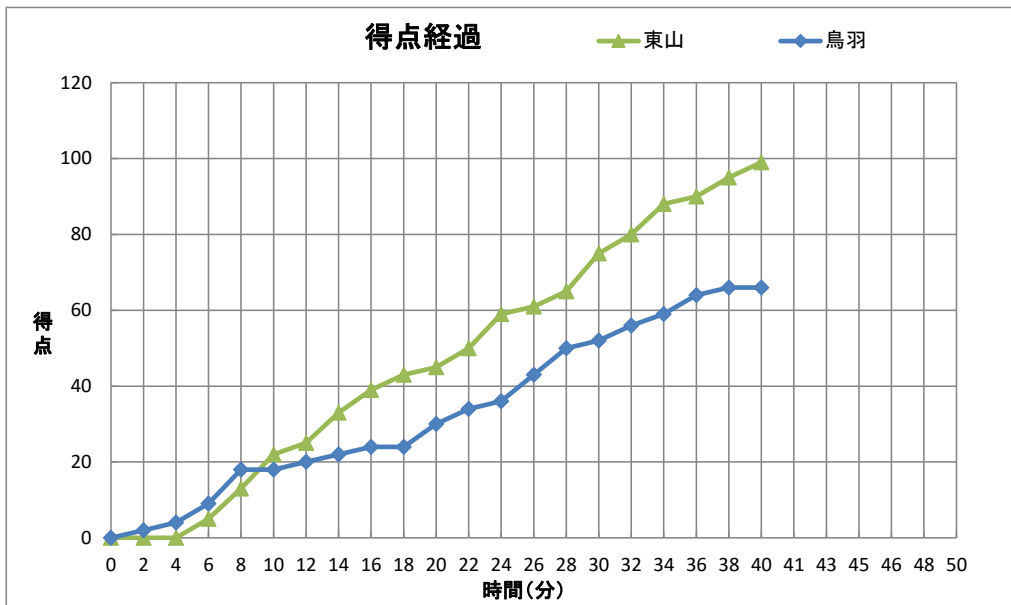




第43回京都府高等学校選手権大会 兼
第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会京都府予選

個人トータル表

男子		11月3日		13:50 開始													
決勝リーグ		島津アリーナ京都		A													
◎ 東山 99		<table border="1"> <tr><td>22</td><td>1st</td><td>18</td></tr> <tr><td>23</td><td>2nd</td><td>12</td></tr> <tr><td>30</td><td>3rd</td><td>22</td></tr> <tr><td>24</td><td>4th</td><td>14</td></tr> </table>		22	1st	18	23	2nd	12	30	3rd	22	24	4th	14	66 鳥羽	
22	1st	18															
23	2nd	12															
30	3rd	22															
24	4th	14															
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則				
* 4	佐藤 友	39	0	15	9	0	* 0	能勢 陽	4	0	2	0	3				
* 5	瀬川 琉久	12	2	1	4	1	2	坂本 立輝	7	0	3	1	2				
* 6	カンダ マヒカ サ ロモン	6	0	2	2	2	5	関口 奏	0	0	0	0	0				
7	十川 虎之介	5	1	1	0	0	64	常谷 孔真	2	0	1	0	1				
8	小泉 広翔	2	0	1	0	2	11	杉村 虹	9	1	3	0	1				
9	竹内 龍ノ介	0	0	0	0	1	13	清次 光聖	0	0	0	0	0				
10	南川 陸斗	11	1	4	0	0	* 21	鬼塚 彩叶	6	1	1	1	2				
11	伊計 叶貴	8	2	0	2	1	* 23	河内パー 瀬那	5	0	2	1	3				
* 12	飯田 流生	3	1	0	0	1	27	笠原 桂斗	9	0	4	1	0				
* 13	佐藤 凪	0	0	0	0	1	29	福島 耕平	0	0	0	0	2				
14	松島 慎弥	3	1	0	0	2	34	高久 凌聖	7	0	3	1	4				
15	ナトツリ オンケン ベナ ミネ	0	0	0	0	0	* 36	奥村 将吾	15	1	6	0	0				
16	戴元 太郎	2	0	1	0	1	38	福瀧 光	2	0	1	0	0				
17	小野寺 星夢	8	2	1	0	1	* 43	上田 雄介	0	0	0	0	1				
18	川口 律	0	0	0	0	0	58	吉永 照龍	0	0	0	0	0				
コーチ	大澤 徹也					0	コーチ	福嶋 一夫					0				
Aコーチ	山崎 健太郎						Aコーチ	島崎 道朗									
合計		99	10	26	17	13	合計		66	3	26	5	19				
主審: 赤井 正史																	
副審: 中村 公彦																	
副審: 徳本 将思																	



CTO	1・2P	3・4P	OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	29:39	:	:	:
TeamB	12:03	13:10	28:13	:	:	:

〔 戦 評 〕

ウィンターカップ京都府予選男子決勝リーグ第1試合の東山対鳥羽の対戦。
第1Q、東山はオールコートマンツーマン、鳥羽はゾーンディフェンスで試合開始。鳥羽は#21ジャンプシュート、3Pのバスケットカウントなどでリードする。東山は鳥羽のゾーンディフェンスになかなかアウトサイドシュートが決まらない苦しい時間帯が続くが#6#4のゴール下#5のドライブで徐々に落ち着きを取り戻す。鳥羽は#2のバスケットカウントなどで逆転を許さない。残り30秒#5のフリースローで逆転した東山が22対18でリードして第1Q終了。
第2Q、東山はディフェンスをオールコートゾーンに変える。鳥羽はなかなかリズム良く得点できない時間が続く。対する東山は#4が連続得点を決めリードを広げ始める。タイムアウトで流れを変えたい鳥羽だが東山が激しいディフェンスからの速攻で一気に点差を13点としたところで2回目のタイムアウト。鳥羽も#36#27のドライブ、#11のダブルクラッチなどで加点するも、東山#17の連続得点でなかなかリードを縮められない。良いディフェンスからリズム良く得点を重ねた東山が45対30とリードを広げ前半終了。第3Q、鳥羽が#36の連続ジャンプシュートで得点するも東山の#4のゴール下#5#12の3Pなど多彩な攻撃でリードを広げられてしまう。東山の高さに対して攻められない時間帯が続く鳥羽だが、ハードなディフェンスから速攻や#27のバスケットカウントなどで簡単にはリードを広げさせない。終盤#4がゴール下で存在感を見せた東山が75対52とリードし最終Qへ。
第4Q、攻撃の手を緩めない東山はオールコートプレスから効率よく得点を重ねていく。対する鳥羽も#36の3Pなどで最後まで諦めない。お互いたくさんのメンバーを使い最後まで戦ったが、激しいディフェンスからの多彩なオフェンスが光った東山が99対66で勝利した。